



ジョルジョ・モランディ《静物》1956年、モランディ美術館蔵
©SIAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2011

企画展 4月9日(土)～5月22日(日)
「没後50年 森岡柳蔵 -大正の抒情、パリの夢-」 2

企画展 7月16日(土)～8月28日(日)
「OCEAN! 海はモンスターでいっぱい」 2

企画展 東北地方太平洋沖地震の影響により、展覧会の開催は当面延期となりました。
※関連事業も変更されています。
「ジョルジョ・モランディ展」 3
モランディとの対話ーデ・キリコからフォンターナへ

[自然] 資料紹介「こけ? きのこ? いいえ、「地衣類」です! -生駒地衣類コレクション-」 4

[人文] 資料紹介「筒形銅器」 5
コラム「狛犬の尻尾-『鳥取県内の狛犬調査』概報-」

[美術] 美術常設企画展示「障屏画」 6
新収蔵品紹介「辻 晋堂作《顔(寒拾)》」
美術常設展示

[山陰海岸学習館だより] ジオパークにおける博物館の役割 7

[お知らせ] 大学生以下・70歳以上の方は入館無料です 7

講座・観察会・毎週土曜はアートの日! 8



没後50年 森岡柳蔵

—大正の抒情、パリの夢— 黒田清輝、藤田嗣治らの作品とともに

鳥取県河村郡(現 湯梨浜町)松崎に生まれた森岡柳蔵(もりおか・りゅうぞう、1878-1961)は、外光派の画家として、鳥取県洋画史の初期作家の一人に位置づけられます。1897年頃に上京した森岡は、黒田清輝の主宰する天真道場に学んだ後、東京美術学校に進みます。卒業後の1904年には、清国京師大学堂(現 北京大学)に赴き2年間教鞭を執りました。帰国後は文展、光風会展などの公募展に出品を重ねる一方、和田英作のもとで帝国劇場の壁画制作に携わるなど、多方面にわたる活躍がみられます。さらに1922年からの3年間は、フランスに留学し、前田寛治や藤田嗣治らと交流しながら、サロン展に入選するなど、画家としての地位を固めました。一方で、鳥取美術協会展や砂丘社展などにも出品するなど郷土とのつながりも

深く、後進の画家達に大きな影響を与えました。



森岡 柳蔵《衣ぬう女》1910年頃
油彩・カンヴァス 鳥取県立博物館蔵

没後50年の節目に開催する本展では、サロン展出品作を含む森岡の油彩画・水彩画・素描等の作品約100点をはじめ、交遊のあった黒田清輝、藤田嗣治、和田三造、橋本邦助らの作品とともに、森岡の全体像をご紹介します。光の表現を強く意識した、大正という時代の特徴を彷彿とさせる作品の数々をぜひご覧下さい。

(美術振興課 林野 雅人)

- 会期 4月9日(土)～5月22日(日) 無休
- 会場 2階 第1・2特別展示室
- 入館料 個人当日/600円
個人前売、20名以上の団体/400円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料

■関連行事

- 特別講演会
「藤田嗣治と日本の洋画家たち」
4月16日(土)午後2時～3時30分 講堂(無料)
講師:山野英嗣氏(京都国立近代美術館 学芸課長)
- 特別講演会
「油絵の魅力～修復の現場から～」
4月23日(土)午後2時～3時30分 講堂(無料)
講師:村松裕美氏(有限会社修復研究所21所長)
- ギャラリートーク
※担当学芸員が展示作品の解説をします。
4月9日(土)、5月21日(土) 午後2時～3時
- ワークショップ「肖像画に挑戦!」
日時:5月7日(土)午後2時～4時 会議室
講師:藤原晴彦氏(洋画家)
対象:小学生～中学生
定員:20名(要申込(電話のみ))
受付期間:4月23日～(定員になり次第締切)
- アートセミナー「森岡柳蔵の画業について」
日時:5月14日(土)午後2時～3時30分 講堂(無料)
講師:林野雅人(当館美術振興課)

OCEAN! 海はモンスターでいっぱい

約40億年前に誕生した海。生命はこの海で誕生しました。そして今日まで、海はたくさんの生物の進化の舞台でもあります。たとえば、約2億5千万年前の古生代と中生代の境目では、全生物の95%以上が絶滅しました。これ

は、大陸の分裂、大規模な火山活動、酸素の欠乏といった海の変化が原因と考えられています。しかし、ある生物が消えた環境は、新たな生物にとっての進化の舞台となります。このように、種類は変わっても、生命のバトンは途絶えることなく引き継がれ、生物多様性は変遷しているのです。

約6500万年前の海では、クビナガリュウやモササウルスなどの大型爬虫類が姿を消しました。その空いてしまった海に進出したのはクジラ類などの哺乳類でした。海でくらす大型の「モンスター」

は爬虫類から哺乳類に置き換わったのです。海で生きるためには、海という環境に適応しないといけません。このことは、モササウルスは爬虫類、クジラは哺乳類なのに、お互いその形がよく似ていることからみえてきます。

この夏はぜひ、海を舞台にした「海のモンスター」たちの進化のすがたをお楽しみください。きっと進化の本当の意味がみえてくることと思います。そこから、未来の海についても考えてみましょう。

(学芸課 川上 靖)



左から、シファクティヌス(林原自然科学博物館蔵)・クビナガリュウ(北海道中川町エコミュージアムセンター蔵)・タカアシガニ(当館蔵)

- 会期 7月16日(土)～8月28日(日) 無休
- 会場 2階 第1・2特別展示室
- 入館料 個人当日/800円
個人前売、20名以上の団体/600円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料

ジョルジョ・モランディ展

—モランディとの対話 デ・キリコからフォンターナへ—

当館では6月5日から、20世紀最大の静物画家、ジョルジョ・モランディ(1890年~1964年)の回顧展を開催します。モランディは北イタリアの古都ボローニャに生まれ、ピカソやシャガール、マグリットらと同じ時代に活躍し、生前より国際的に高く評価されていた画家です。彼の作品の愛好者には、映画監督のフェデリコ・フェリーニや女優のソフィア・ローレンがいたことも知られています。

しかし、華々しいキャリアとは裏腹に、モランディの生涯は静かなものでした。ボローニャの美術アカデミーに進学したモランディは、フランスの美術動向に関心を抱いてパリ留学を考えますが、父親が死去したために断念します。そして、20歳の時、母親と妹とともにボローニャ市内の小さなアパートに転居し、没するまでそこで暮らしました。また、モランディが作品に描いたのも、つましく日常的なモチーフです。彼は生涯に1300点以上の油彩画を制作していますが、そのほとんどが「静物」「花」「風景」の主題に限られます。台所雑貨や花瓶の造花、アトリエの窓から見える風景が、彼の愛したモチーフでした。なかでも、壺や壺、空き缶などの日用品を描いた静物画が圧倒的に多く、モランディの芸術を代表する重要なテーマとなっています。

それでは、モランディはなぜ、同じ

ようなモチーフを繰り返し描き続けたのでしょうか。実は、彼の作品をよく観察すると、伝統的な静物画とは大きく異なる表現を見つけることができます。まず、モランディは制作に際して、モチーフとなる壺や箱のラベルを剥がし、時には白や茶色に塗装した上でテーブルに配置しています。彼はこの操作により、モチーフの現実的な意味や用途を削ぎ落とし、物そのものが持つ幾何学的で単純な形態に注目しようとした。それゆえ、その作品には、観る者に抽象的な印象を与えるものも少なくありません。また、同じモチーフを何度も描きながら、作品ごとに構図や色調を少しずつ変えていく試みも、モランディ独自のスタイルです。彼は、描く対象を制限することによって、技法や構図、画材の違いから生まれる様々な表現のヴァリエーションを見出そうとしていたのです。

さて、このたびの展覧会では、イタリアのモランディ美術館の所蔵品を中心に、約70点のモランディ作品を展示します。油彩画だけではなく、精密な線描による銅版画や、絵具の滲み(にじみ)が美しい水彩画も出品しますので、技法によって異なる表現の魅力をぜひ味わっていただきたいと思います。



ジョルジョ・モランディ《花》1950年、モランディ美術館蔵 ©SIAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2011

また、本展では第2部を設け、モランディと交流のあった画家や、彼が影響を与えた画家の作品もご紹介する予定です。

モランディの本格的な回顧展は、日本では22年ぶりの開催となります。静謐、かつ実験的な作品が並ぶ本展に、どうぞご期待ください。

(美術振興課 竹氏 倫子)



ジョルジョ・モランディ《静物》1952年、モランディ美術館蔵 ©SIAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2011

- 会 期 **東北地方太平洋沖地震の影響により、展覧会の開催は当面延期となりました。 ※関連事業も変更されています。**
- 会 場 2階 第1・2特別展示室
- 入館料 個人当日/1000円
個人前売、20名以上の団体/800円
大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 関連事業
 - 特別講演会
「ジョルジョ・モランディ — 人と芸術」
日時:未定
講師:岡田温司氏(京都大学大学院教授、本展監修者)
 - ギャラリートーク
日時:未定
 - アートセミナー
 - ①「モランディと20世紀美術」
日時:未定
講師:尾崎信一郎(当館副館長)
 - ②「モランディと近世イタリア絵画について」
日時:未定
講師:竹氏倫子(当館美術振興課)
 - アートシアター「甘い生活」
(フェデリコ・フェリーニ監督、イタリア・フランス、1960年)
日時:未定

こけ?きのこ? いいえ、「地衣類」です!

一生駒地衣類コレクション



栗溪神社(鳥取市栗谷町)の狛犬

この写真の狛犬、頭のとっぺんに生えた緑のこけがおしゃれですが、よく見ると、おでこや鼻先にも、白いべったりとしたこけがついています。右の写真の石碑にも、白くて丸いこけがたくさん着いています。古い石碑や石垣などによく着く、こういう白いこけにもいろいろな種類があって、ヘリトリゴケとか、イワニクイボゴケとか、いろいろな名前がついています。

狛犬の頭のとっぺんに生えている緑色のこけは、専門的には、「コケ植物」とか「蘚苔類」と呼ばれる、木や草などと同じ植物の仲間です。細胞の中に緑色の「葉緑体」を持っていて、太陽の光のエネルギーによって栄養分をつくる「光合成」をしています。一方、白いこけは、〇〇ゴケと名前がついていても「コケ植物」ではありませんし、それどころか植物の仲間でもありません。「地衣類」といって、きのこやカビなどの「菌類」の仲間です。

地衣類の体内には光合成をする単細胞の「藻類」が住みついており、地衣類は藻類に住みかかを与え、藻類は光合成で作った栄養を地衣類に与えて、「共生」をしています。共生により、カビやきのこが生えないような陽当たりのよいところで、長いこと暮らすことができます。

地衣類には、岩にぴったりくっついたものだけでなく、枝分かれたものや、葉っぱのようなものもあり、実に様々な形をしています。そして、大気汚染などに弱く、その土地の環境のバロメーターにもなります。

鳥取県立博物館には、日本の地衣学に大きな貢献をされた生駒義篤氏(1918～2007) 寄贈の2000点を超える地衣類標本が収蔵されています。生駒義篤氏は、鳥取県の高校の教員を勤めるかたわら、日本の地衣類や地衣学史、植物学史について研究し、多数の文献をまとめました。また、義篤氏の父である生駒義博氏(1892～1979)も、鳥取商業学校などの教員を勤めながら、地衣類を含む郷土の動植物について幅広い研究をしたことで知られています。当館の生駒コレクションは、生駒父子による鳥取県の大正時代からの自然の変化を物語る貴重な標本が大部分を占

めますが、国内外の地衣学者との交流・交換により入手した世界各地の標本も含まれています。ほとんどの標本が当時の第一線の地衣学者によって鑑定されており、また、新種発表の基準にな



国指定天然記念物白兎神社樹叢の石碑

なった標本の重複標本であるアイソタイプも含まれています。これらの標本は分類学的な研究を行うときたびたび参照されます。

日本の地衣学の発展と普及を目指して作られた学会「地衣類研究会」が、今年の夏、鳥取県立博物館で40周年の記念大会を開きます。大会に併せ、一般向けに講演会と2回の観察会を開きます。身近にありながら普段まったく気がつかない地衣類の世界を、国内の第一線の研究者たちに案内してもらえらる貴重な機会ですので、ふるってご参加ください。

(学芸課 有川 智己)



樹幹に着くさまざまな葉状地衣類 [大村嘉人氏撮影]



当館に所蔵されている、イコマウメノキゴケ *Parmelia ikomae* Asahinaのアイソタイプ

○特別自然講座

「地衣類研究会第40回大会講演会」

7月30日(土)午後1時30分～午後4時、講堂

講師：地衣類研究会会員

(大学教授や博物館研究者など3名程度の予定)

定員：約100人(申込不要、無料)

○野外観察会

①「光る地衣類ナイトツアー」

7月30日(土)午後8時～9時

ホテルウェルネス因幡路(鳥取市松原)

②「鳥取城の地衣類を観察しよう!」

7月31日(日)午前9時30分～正午

会議室・博物館周辺

講師：大村嘉人氏(国立科学博物館)ほか

対象：小学生～一般、小学生は保護者同伴

定員：①20人、②30人(要申込、先着順、無料)

申込：7月14日(木)～(電話のみ)

県立博物館学芸課(0857-26-8044)まで。

筒形銅器

写真の資料は、鳥取市国府町西浦山古墳で見つかった「筒形銅器」です。全長13.5cm、一方が閉じた円筒形の青銅製品で、もう一方は直径2cmの口として開いています。口から約4.5cmのところ段があり、口と段の間のほぼ中央に一对の孔があります。側面の4方向に、細長い長方形の孔が2個ずつ開けられています。

この筒形銅器は、槍などの長柄の武器、もしくは権威の象徴の「儀仗」などの石突（柄の先端につけるもの）として使われたと考えられています。また、中に小さな棒が入ったものがあることから、音響を期待するものでもあったようです。これまでに日本で73点、朝鮮半島で68点が見つかっており、日本では古墳時代前期後半～中



筒形銅器

期前半（4世紀中頃～5世紀前半）の古墳に副葬されています。かつては日本製とされてきましたが、近年の調査による出土例の増加から朝鮮半島製の可能性も高まりました。製作地がいずれであれ、ヤマト政権から配布されたものと考えられます。

県内では、筒形銅器は西浦山古墳の他に鳥取市生山29号墳で見つかるだけです。両者ともに千代川右岸の鳥取平野周辺の丘陵上にあり、規模がさほど大きくない円墳・方墳と

いう共通点があります。全国的にも、筒形銅器は大型前方後円墳や地域の首長墳と考えられる大型古墳から見つかる一方、中小の古墳から出土する例が多くあります。

4世紀後半～5世紀初頭にかけての時期にヤマト政権内部で勢力交替があったことが、古墳の分布や副葬品の種類などから推定されています。筒形銅器が副葬される古墳はまさにその時期に築造されたもので、ヤマト政権内における新興勢力との関係が深いと考えられています。本例を含めた中小の筒形銅器出土古墳の被葬者は、ヤマト政権内の新興勢力と連携した地域勢力の、その一端を担った有力者層だったのでしょうか。

（学芸課 東方 仁史）

コラム

こまいぬ しっぽ 狛犬の尻尾 —「鳥取県内の狛犬調査」概報—



室神社の狛犬（岩谷東亜氏撮影）

本年度、当館では神社の参道に置かれる石造狛犬の因幡・伯耆での普及の始期、他地域との関係等を明らかにするため、昭和20年以前に製作された狛犬を対象に、大きさの測定、所定の角度での写真撮影、銘文の確認を行いました。約90名の調査員の協力で県内神社の6割強、約650組の狛犬のデータを得ることができました（1月末現在、調査は継続中）。

この調査で判明した鳥取県の狛犬の特徴の一部を紹介しましょう。

①長毛で先端の突った筒状の尻尾を持つ狛犬が、江戸時代末（19

世紀前半）から昭和40年代頃まで広く作られている（尻尾の形は地域で異なり、例えば関西ではヤツデの葉を広げたような形が一般的）。

②現存する狛犬のほとんどは19世紀以降に制作されたもの（台座の銘文や「神社御改帳」（当館蔵、江戸時代末期に編纂）の記載から、因幡・伯耆の神社に狛犬が置かれるようになったのは19世紀前半からと考えられる）。

①・②は『出雲・石見狛犬見聞録』（廣江正幸・永井泰著、2010年）によると、鳥根県でも共通します。そして、同書より両県の最古級の狛犬がよく似ていることも分かりました。今回確認された因幡最古の狛犬は、寛政12年（1800）制作の室神社（鳥取市国府町）のものですが、天明元年（1781）に出雲から金刀比羅宮（香川県）に寄進された狛犬とほぼ同型なのです。尻尾の先端は尖らず丸くなっており、①と異なり（伯耆は米子



①の尻尾の狛犬（鳥取市気高町姫路神社）

市・貴布禰神社の天明4年（1784）の狛犬が最古。現時点で、似た狛犬は未確認です）。

また、但馬一宮の出石神社の狛犬（明治39年制作）も①の尻尾を持っており、あるいは兵庫県北部にも同タイプが分布している可能性があります。現在、愛好家の間では鳥根で見られる狛犬を「出雲式」と称していますが、「山陰式」と呼んだ方がよいかもしれません。今後、調査・検討を深めていきたいと思えます。

（学芸課 石田 敏紀）

美術常設企画展示

しょうへいが 障屏画

4月9日(土)～5月22日(日)



曾我蕭白筆「月夜山水図襖」(鳥取県立博物館蔵(石谷コレクション))

みなさまは御自宅に、絵を飾っていらっしゃいますか? 「絵を飾る」というと、どこか大袈裟に聞こえるかもしれませんが、美しい景色を写した色鮮やかな写真を飾ったり、タペストリーやファブリックパネルを壁に掛けたりすることなども、部屋に彩りを添え、より豊かな気分させてくれるという点で同じような行為といえるかもしれません。

浮世絵が隆盛した江戸時代には、「柱絵」といって、長細い短冊のようなかたちの浮世絵も誕生し、柱に掛けて鑑賞されていたようです。また床の間には、日本古来の絵画の形態である掛軸を飾るのが通例でした。床の間自体が少なくなってきた昨今では、

掛軸に代わって額に入れた状態で飾られることの方が多いなっています。

室内装飾の絵画にはさまざまな形態がありますが、このたび当館で企画している「障屏画」もそうしたもののひとつです。具体的には、障子や襖などの建具や、屏風や衝立といった風よけの調度に描かれた、比較的大画面の絵画を指します。建築と密接に結びついたこれら障屏画は、日本において独特の発展を遂げました。特に桃山時代には多数の城郭建築の造営にともない、金を多用した華麗で豪壮な襖絵などが描かれ、その黄金時代を現出しました。

障屏画は、建造物の焼失とともに

その運命を同じくすることが多く、また、現在のわたしたちが暮らす仕切りの多く密閉性の高い居住空間では、屏風や衝立の必要性は低く、これらの調度への関心もかなり薄れていると言えるでしょう。

このたび当館では、日本伝統の障屏画への関心が少しでも高まることを期待しつつ、館藏品や寄託品の中から、江戸時代初期から幕末までの約200年間に描かれた障屏画を約10点展示いたします。古来より日本人が創出してきた生活美術の豊かな様相を、ぜひご覧ください。

(美術振興課 山下 真由美)

新収蔵作品紹介

辻 晉堂作《顔(寒拾)》

鼻と口が二つずつあって、目も二つ以上ある…。少し怖いようにも感じられる、見る者に独特の印象を与える彫刻作品《顔(寒拾)》。2010年度に当館が収集した本作は、鳥取県日野郡二部村(現・西伯郡伯耆町)出身の辻 晉堂(つじ・しんどう 1910～1981)が、京都に移ってから制作を開始した陶彫(とうちょう:陶土でつくり、窯で焼き上げた彫刻)を初めてメインに据えて開催した個展(東京・丸善画廊・1956年4月)に出品された作品です。同展には、小型から中型

の陶彫作品13点が出品されました。そのどれもが、窯での焼成時に破裂せぬよう、火の回りをよくする凹凸が多く作られたり、中を空洞にしたりといった構造になっています。立体的な構造と、造形的な表現内容とを融合させるのが辻の陶彫作品全般の特徴ですが、同展出品作にもすでにその特徴はあらわれています。本作の場合は、接合された二人の人物(寒山と拾得)の顔の内部が空洞化されていますが、それは彼らの無常感、イノセンスを暗示しているようでもありま



「生誕100年 彫刻家 辻 晉堂展」で展示中の《顔(寒拾)》

す。また、「多重化された顔」という表現は、ピカソのキュビズムからの影響をもうかがわせるものと言えるでしょう。

本作は、2010年～2011年にかけて当館と神奈川県立近代美術館 鎌倉で開催された「生誕100年 彫刻家 辻 晉堂展」に出品されました。会場でもそのユニークな造形は多くの方々の注目を集めていました。

(美術振興課 三浦 努)

美術常設展

1F 美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

H22コレクション展Ⅳ	2月23日(土)～4月28日(日)
コレクション展Ⅰ	5月1日(日)～7月10日(日)
コレクション展Ⅱ	7月14日(木)～9月25日(日)
コレクション展Ⅲ	9月28日(水)～12月4日(日)
コレクション展Ⅳ	12月7日(水)～2012年2月26日(日)
コレクション展Ⅴ	2012年2月29日(水)～4月1日(日)

2F 近代美術展示室 [美術常設企画展示]

しょうへいが 障屏画	4月9日(土)～5月22日(日)
館藏品にみる静物	5月28日(土)～7月3日(日)
めぐるぐるぐる -さがしてみよう!四季のいろ-	7月23日(土)～8月28日(日)
収蔵品でたどる 鳥取近代絵画の100年	11月19日(土)～12月25日(日)
画家と旅	2012年2月18日(土)～3月25日(日)

※途中展示替えのため、以下の日は休室します。6月6日(月)、8月22日(月)、10月31日(月)、1月16日(月)

ジオパークにおける博物館の役割

2010年10月、ギリシャ・レスボス島で開催された国際会議において、「山陰海岸ジオパーク」が世界ジオパークネットワーク=Global Geoparks Network (以下 GGN) に加盟することが決定しました。ユネスコが支援するGGNの一員になるためには、そのガイドラインに基づく審査を受けて承認される必要があります。これまでに洞爺湖有珠山・糸魚川・島原半島の3つのジオパーク地域がGGNに加盟していましたので、「山陰海岸ジオパーク」は国内4地域目の世界認定となりました。

ジオパークは、学術的に価値の高い地質遺産を「保全」するだけでなく、教育や観光資源として「活用」し、地域の活性化に貢献することを目的としています。博物館等の拠点施設には、地域の自然や文化を探究し、それらの価値や魅力をわかりやすく伝える活動が求められています。山陰海岸学習館では、館内展示や野外観察会等を通してジオパークの教育普及活動に積極的に取り組むとともに、地学と生物の学芸員2名が常駐し、いつでも専門的な依頼や相談に対応できるようにしています。地域の小・中学校が取り組む「ジオパークの学習」においても、専門家として様々な角度からアドバイスなどをしています。まずは、地元の方々、中でも子ども

たちが自分たちの住む地域の良さに気づき、地域を誇りに思う心を養うことが、GGNが目指す地域活性化のねらいです。これからもジオパークの拠点施設のスタッフとして、地域の地形・地質や生物について調査研究を行い、多くの方々にその魅力を発信していきたいと思えます。

(山陰海岸学習館 和田 年史)



ジオパーク学習でのフィールドワークの様子

鳥取県立博物館付属
山陰海岸学習館
San'in Kaigan Nature Museum



■入館料：無料
■開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
7～8月の毎週土曜日は18時まで開館(入館は17時30分まで)
■休館日：毎週月曜日
(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日～1月3日)
※7月20日～8月31日は毎日開館
【お問い合わせ】〒681-0001
鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4
電話・FAX：0857-73-1445
<http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/>

県立博物館からのお知らせ

大学生までの学生・生徒の方、70歳以上の方は
(常設展・企画展とも)

入館無料です。

4月から10月の企画展開催中の
土曜日、日曜日、祝日は午後7時まで
開館します。



■ 学習館で行う普及活動一覧(4月～9月)

《野外観察会》

「ハルゼミの羽化の観察」
5月14日(土)午後7時～9時 場所/山陰海岸学習館
対 象：小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：30名(先着順)
申込開始：4月30日(土)～、電話のみ

《野外観察会》

「バスでめぐるジオスポットツアー」
5月15日(日)午前8時30分～午後4時30分
場所/兵庫県豊岡市周辺(神鍋・豊岡・竹野)
対 象：小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：40名(定員を越えた場合は抽選)
申込期間：4月8日(金)～4月30日(土)、往復ハガキ
による申込のみ(必着)

《野外観察会》

「砂浜にくらす魚の赤ちゃん調べ～春の曳き網体験～」
6月5日(日)午前9時～12時 場所/熊井浜
対 象：幼児、小学校 低学年向け(保護者同伴)
定 員：30名(先着順)
申込開始：5月22日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「砂浜でくらすスナガニの巣穴掘り体験」
6月26日(日)午前9時～12時 場所/熊井浜
対 象：幼児、小学校 低学年向け(保護者同伴)
定 員：30名(先着順)
申込開始：6月12日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「磯の観察会」
7月24日(日)/30日(土)/31日(日)
午前9時～午後3時 場所/熊井浜
対 象：小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：各回30名(定員を越えた場合は抽選)
申込期間：6月19日(日)～7月3日(日)、往復ハガキ
による申込のみ(必着)

《自然講座》

「山陰海岸ジオパークの岩石図鑑をつくろう！」
8月7日(日)午後1時～3時30分
場所/山陰海岸学習館
対 象：小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：各回30名(先着順)
申込開始：7月24日(日)～、電話のみ
参加費(材料費)：200円

《野外観察会》

「ジオパークの夏の夜空を楽しもう！」
8月21日(日)午後7時～9時
場所/山陰海岸学習館
対 象：小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：なし、申込不要

《歴史講座》

「貝の腕輪をつくろう！」
9月23日(金・祝)午後1時～3時30分
場所/山陰海岸学習館
対 象：小学校高学年～一般(小学生は保護者同伴)
定 員：20名
申込開始：8月26日(金)～9月16日(金) 電話のみ
参加費(材料費)：100円

※申し込みは県立博物館学芸課(0857-26-8044)へ

※歴史講座以外の申込、問合せは山陰海岸学習館へ

2011 4 APR.	《アートシアター》 世界美の旅「ミレー」「スーラ」	■ 4月2日(土) 14:00(各30分)~15:00 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 「障屏画」	■ 4月9日(土) 13:30~14:00 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《ギャラリートーク》 【没後50年森岡柳蔵】	■ 4月9日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《歴史講座》 神話・伝説を読む「イナバの素兎」(2回)	■ 4月10日・24日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■ 高校生~一般 / 定員20名(先着順) ※申込期間 3月24日~
2011 5 MAY.	《特別講演会》 「藤田嗣治と日本の洋画家たち」	■ 4月16日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(先着順)
	《講演会》 弥生時代の木材利用	■ 4月17日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 一般 / 定員250名(先着順)
	《特別講演会》 油絵の魅力~修復の現場から~	■ 4月23日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(先着順)
	《ワークショップ》 鯉のぼりをつくろう!	■ 4月30日(土) 14:00~16:00 / 会議室他 ■ 幼児・小学生とその保護者 / 定員30名 ※申込期間 4月16日~
	《ワークショップ》 肖像画に挑戦!(森岡柳蔵展関連)	■ 5月7日(土) 14:00~16:00 / 会議室他 ■ 小学生・中学生 / 定員20名 ※申込期間 4月23日~
	《天体観望会》 春の星を見る会	■ 5月7日(土) 19:00~21:00 / 博物館前庭 ■ 小学生~一般 / 定員なし ※雨天・曇天時は中止。申込不要
	《アートセミナー》 森岡柳蔵の画業について	■ 5月14日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名
	《ギャラリートーク》 【没後50年森岡柳蔵】	■ 5月21日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《野外観覧会》 コケ・スポット・ウォーキング	■ 5月22日(日) 10:00~14:00 / 博物館周辺 ■ 小学生~一般 / 定員15人 ※申込期間 4月28日~(電話申込)
	《ワークショップ》 落書きばんざい!	■ 5月28日(土) 14:00~16:00 / 玄関前・外 雨天会議室 ■ 幼児・小学生とその保護者 / 定員30名 ※申込期間 5月14日~
2011 6 JUN.	《歴史講座》 古代生活を体験しよう!	■ 5月29日(日) 9:30~13:00 / 鳥取砂丘・柳茶屋キャパ場 ■ 小学校4~6年生とその保護者 / 定員30名(500円) 要申込(往復はがき)抽選 ※申込期間: 4月29日~5月20日
	《アートシアター》世界美の旅 「クレー・色彩の管弦楽」「カンティンスキー-抽象の騎士」	■ 6月4日(土) 14:00~14:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(無料)
	《講演会》 弘化・嘉永年間の鳥取城二ノ丸再建・拡張について	■ 6月5日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 一般 / 定員250名(申込不要)
	《ギャラリートーク》 【収蔵品でたどる鳥取の美術250年】(仮)	■ 6月11日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
2011 7 JUL.	《ワークショップ》 うるし工芸に挑戦!	■ 6月18日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■ 小学生~一般 / 定員20名(650円) ※申込期間 6月4日~(電話申込・先着順)
	《ギャラリートーク》 【収蔵品でたどる鳥取の美術250年】(仮)	■ 6月25日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《アートシアター》 (内容未定)	■ 7月2日(土) 14:00~14:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(村の文書を読む) 2回	■ 7月3日・10日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■ 一般 / 定員15名(申込不要)
	《ギャラリートーク》 【収蔵品でたどる鳥取の美術250年】(仮)	■ 7月9日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《アートシアター》 (内容未定)	■ 7月16日(土) 14:00~14:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名
《歴史講座》 弓矢をつくろう!	■ 7月17日(日) 10:00~15:00 / 会議室・前庭 ■ 小学校4~6年生とその保護者 / 定員20名(200円) ※申込期間 6月17日~7月8日 要申込(往復はがき・抽選)	

2011 7 JUL.	《講演会》 鳥取県の狛犬	■ 7月18日(月・祝) 14:00~15:00 / 講堂 ■ 一般 / 定員250名(申込不要)
	《野外観覧会》 川原の石を調べよう!	■ 7月23日(土) 10:00~15:00 / 鳥取市河原町 和奈見の千代川川原(午前)・瀬川中央公民館(午後) ■ 小・中学生 / 定員30名 / 200円 ※申込期間 6月30日~
	《アートシアター・アンコール上映 I》 トントンゴキゴキ図工の時間	■ 7月23日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(無料)
	《野外観覧会》 街灯の下で昆虫を探そう!	■ 7月23日(土) 19:00~21:00 / 会議室・博物館周辺 ■ 小学生以上(未就学児の参加も可) / 定員30名 ※申込期間 7月7日~
2011 8 AUG.	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■ 7月24日(日) 14:00~15:00 / 常設展示室内復元民家(要常設展入場料)
	《ワークショップ(美術・自然コラボ企画)》 くびなが竜をつくろう!	■ 7月30日(土) 14:00~16:00 / 展示室・会議室 ■ 幼児・小学生とその保護者~中学生 / 定員30名(要材料費) ※申込期間 7月16日~
	《特別自然講座》 地衣類研究会鳥取大会講演会	■ 7月30日(土) 13:30~16:00 / 講堂 ■ 一般 / 定員100名(申込不要)
	《天体観望会》 夏の星を見る会	■ 7月30日(土) 19:00~21:00 / 博物館前庭 ■ 小学生~一般 / 定員なし(申込不要) ※雨天・曇天時は8月6日(土)
	《野外観覧会》 光る地衣類ナイトツアー	■ 7月30日(土) 20:00~21:00 / ホテルウェルネス因幡路 ■ 小学生~一般 / 定員20名 ※申込期間 7月14日~
	《野外観覧会》 鳥取城の地衣類を観察しよう!	■ 7月31日(日) 9:30~12:00 / 会議室・博物館周辺 ■ 小学生~一般 / 定員30名 ※申込期間 7月14日~
	《歴史講座》 古文書の修復と和綴製本を体験しよう!	■ 7月31日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■ 小学校4~6年生とその保護者 / 定員10名 ※申込期間 7月1日~
	《スペシャルアートレクチャー》 和菓子に見る日本の四季(仮)	■ 8月6日(土) 14:00~16:00 / 会議室他 ■ 小学生~一般 / 定員30名(要材料費) ※申込期間 7月23日~
	《野外観覧会》 仁風閣植物園	■ 8月7日(日) 9:00~12:00 / 仁風閣 ■ 小・中学生 / 定員30名(仁風閣入場料300円) ※申込は仁風閣へ(0857-26-3595)
	《自然講座》(午前・午後・計2回) 化石レプリカをつくろう!	■ 8月7日(日) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30 / 会議室 ■ 小・中学生 / 定員①②とも各20名(200円) ※申込期間 7月21日~(往復はがきのみ)
2011 9 SEP.	《アートシアター・アンコール上映 II》 絵を描く子どもたち	■ 8月13日(土) 14:00~14:40 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(無料)
	《自然講座》 夏休みの自由研究相談室	■ 8月14日(日) 10:00~17:00 / 会議室 ■ 小・中学生 / 定員なし
	《スペシャルワークショップ》【夏休み企画】 みつろう版画①&銅板アートに挑戦!②	■ 8月20日(土) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30 / 会議室 ■ 小学生~一般 / ①、②とも定員30名(要材料費) ※申込期間 8月6日~
	《歴史講座》 お金をつくろう!	■ 8月21日(日) 10:00~12:00、13:30~15:30(2回) / 会議室 ■ 小学校4~6年生とその保護者 / 定員各20名(100円) ※申込期間 7月22日~8月12日 往復はがき抽選
	《ワークショップ》【夏休み企画】 泥にあそぶ~泥絵を描こう~	■ 8月27日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■ 小学生~一般 / 定員30名(要材料費) ※申込期間 8月13日~
	《ギャラリートーク》 コレクション展 II	■ 9月3日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■ 高校生~一般 / 定員なし(要観覧料)
	《アートシアター》 レンツォ・ピアノ	■ 9月10日(土) 14:00~15:15 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名(無料)
	《ワークショップ》 市内アート探検	■ 9月17日(土) 13:00~16:00 / 会議室他 ■ 小学生~一般 / 定員50名 ※申込期間 9月3日~
	《歴史講座(人文・学習館コラボ企画)》 貝の腕輪をつくろう!	■ 9月23日(金・祝) 13:00~15:30 / 山陰海岸学習館 ■ 小学校高学年~一般 / 定員20名(100円) ※申込期間 8月26日~9月16日
	《アートセミナー》 鳥取藩と狩野派絵師	■ 9月24日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■ 高校生~一般 / 定員250名
《野外観覧会》 コケ・スポット・ハイキング in 水ノ山	■ 9月25日(日) 未定 / 響の森周辺 ■ 一般 / 定員20名程度 ※申し込みは響の森	
《歴史講座》 城下町ウォーク -上町周辺を歩く-	■ 9月25日(日) 9:30~12:00 ■ 一般 / 定員20名(先着順) ※申込期間 8月30日~	

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。

鳥取県立博物館ニュース MUSEUM PRESS No.11

平成23年(2011年)3月28日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース
「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
ブルー麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)
「④鳥取城跡」下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



■ JR鳥取駅からタクシーで約10分
■ 当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

MORRIX 株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商栄町203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
0120-154022